

第3号議案

間接オークションの開始等に伴う2018年10月～2027年度の
予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（年間計画、長期計画）の変更について
（案）

第165回理事会（第8号議案）において間接オークションの開始日および関連する業務規程の施行期日が2018年10月1日と決議されたこと等を踏まえ、以下を変更する。

1. 第145回理事会（第5号議案）で決議した2018年～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージンのうち、2018年10月～2020年3月（年間計画）のマージンについて間接オークション開始後の業務規程を踏まえ変更するとともに、すでに、間接オークション開始後の業務規程に基づき設定していた2020～2027年度のマージンについても一部見直しを行う。（別紙1、2）
2. 北海道本州間連系設備増強（2019年3月運開予定）後のマージンについて検討が完了したことから、これを反映し北海道本州間連系設備のマージン（年間計画・長期計画）を見直す。（別紙1、2）
3. 実需給断面において各連系線に確保する値及び確保すべき理由について変更する。（別紙3）

以上の変更について、別紙4により本機関ウェブサイトにて公表する。

公表日：2018年9月14日

以上

【添付資料】

- 別紙1：2018・2019年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン
（年間計画：2018年10月～2020年3月）
- 別紙2：2020～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン
（長期計画）
- 別紙3：実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由について
- 別紙4：ウェブサイト公表文

2018・2019年度の予備力・調整力 及び潮流抑制のためのマージン (年間計画：2018年10月～2020年3月)

(案)

2018年9月14日



〈説明〉 年間断面におけるマージンの値

2

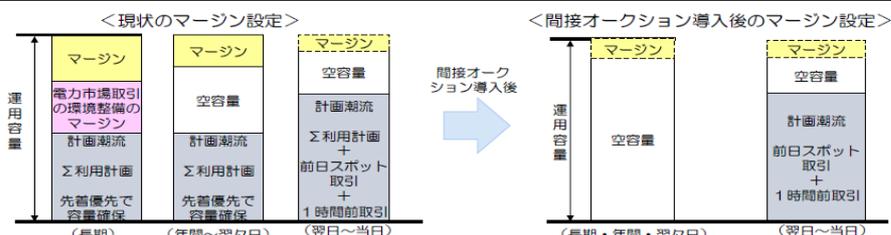
- ◆ 間接オークション導入が2018年10月1日からとなったことを踏まえ、10月以降分のマージンについて間接オークション導入後に適用される送配電等業務指針に基づき設定する。
- ◆ 変更後の送配電等業務指針では、実需給断面におけるマージンが必要な場合を除き、原則としてマージンの値をゼロとする。
- ◆ 実需給断面において、マージンを設定する蓋然性があるものの、計画段階では値を確定することが困難な連系線※については、実需給断面において設定する蓋然性のある値の範囲で設定する。なお、系統情報サービス上は蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
- ◆ また、北海道本州間連系設備増強後のマージンについても、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理内容を反映する。

※いずれも順方向で、東北東京間連系線、北陸フェンス（中部北陸間連系設備、北陸関西間連系線と合わせて確保）、中国四国間連系線

主な業務規程・送配電等業務指針変更点：マージンの設定断面について（変更）

17

- 現行ルールでは、「先着優先」で長期断面から利用計画により容量登録されるため、長期～実需給断面においてマージンを設定している。
- 連系線利用ルールが「間接オークション」に変更され前日スポット取引以降に容量登録されるため、**翌々日断面において実需給断面を考慮したマージンが設定されていればよい。**
- 他方、供給計画を基にした需給バランス評価など予見性の観点から、長期・年間断面においてもマージンを設定しておくことが必要である。
- 上記より、マージン設定の断面は「**長期・年間・翌々日**」とし、現行ルールで実施していた**マージン減少は不要なため削除**する。【規程第128条、第129条】（変更）



※ 年間・月間・翌々日の断面で実需給断面に向けマージンを減少
※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

業務規程・送配電等業務指針（変更）の検討について
出典：広域機関HP 策定・変更に関するお知らせ 2017年度



変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線停電時等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート7,8参照						
	東北⇒北海道	シート7,8参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	532	622	682	732	732	672	
	東京⇒東北	シート9参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	660	700	700	640	
	中部⇒東京	600	620	680	720	720	660	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	700	700	700	700	700	700	夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	700	700	700	700	700	700	
	北陸⇒関西	50	50	60	60	60	60	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	260	280	310	330	330	290	
	関西⇒中部	300	300	330	350	350	320	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	230	250	280	300	300	270	
	中国⇒関西	260	270	300	330	330	290	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	700	700	700	700	700	700	10/15,16は0 3/4~8,11~15は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		下線部：追加・変更箇所							(単位：MW)
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線停電時等	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート7,8参照							
	東北⇒北海道	シート7,8参照							
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>12~462</u> *1	<u>12~462</u> *1	<u>12~462</u> *1	<u>12~392</u> *1	<u>12~392</u> *1	<u>12~392</u> *1		
	東京⇒東北	シート9参照							
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>		
	中部⇒東京	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>		
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
	中部⇒北陸	<u>0~590</u> *2	夜間は0						
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
	北陸⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
中部関西間 連系線	中部⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
	関西⇒中部	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
関西中国間 連系線	関西⇒中国	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
	中国⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0		
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0		
中国四国間 連系線	中国⇒四国	<u>0~700</u> *3	10/15,16は0 3/4~8,11~15は0						
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0		
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0		
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0		

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分12MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW（10~12月）、0~380MW（1~3月）を加えたもの
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW
 ※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~700MW

変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート7,8参照						
	東北⇒北海道	シート7,8参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	462	482	622	662	652	572	
	東京⇒東北	シート9参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	620	600	600	
	中部⇒東京	600	600	610	650	640	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	40	50	50	60	60	50	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	220	240	270	290	290	250	
	関西⇒中部	250	260	290	300	290	250	3/24昼間は200
関西中国間 連系線	関西⇒中国	210	230	260	270	270	230	
	中国⇒関西	220	230	270	290	280	240	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	700	700	700	700	700	700	3/2,3,9,10は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		下線部：追加・変更箇所						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート7,8参照						
	東北⇒北海道	シート7,8参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>12~462*1</u>	<u>12~462*1</u>	<u>12~462*1</u>	<u>12~392*1</u>	<u>12~392*1</u>	<u>12~392*1</u>	
	東京⇒東北	シート9参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	<u>600</u>	600	600	
	中部⇒東京	600	600	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	北陸⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	関西⇒中部	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	3/24昼間は200
関西中国間 連系線	関西⇒中国	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	中国⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	3/2,3,9,10は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・範囲を記載しているマーシンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分12MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW（10~12月）、0~380MW（1~3月）を加えたもの
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~700MW

変更前

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	292	282	292	212	252	252	252	182	212	202	192
	東北⇒北海道	522	542	532	542	502	522	522	522	482	502	492	492
	方向	1月				2月				3月			
	北海道⇒東北	192	192	232	192	192	192	212	172	232	232	272	252
	東北⇒北海道	462	462	512	492	482	472	502	482	512	512	532	522

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW:2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、扱いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)

変更後

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

下線部：追加・変更箇所

(単位：MW)

連系線	方向	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	292	282	292	212	252	252	252	182	212	202	192
	東北⇒北海道	522	542	532	542	502	522	522	522	482	502	492	492
	方向	1月				2月				3月			
	北海道⇒東北	<u>132</u>	<u>142</u>	232	192	<u>162</u>	<u>162</u>	212	172	232	232	272	252
	東北⇒北海道	462	462	512	492	482	472	502	482	512	512	532	522

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW:2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、扱いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)



変更前

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	10月（運用容量300MW時）				1月（運用容量300MW時）				備考
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	142	142	102	102	—	—	182	—	(10月) 運用容量300MW 平P・N 11~12,17~19,22,24日 休P・N 20日
	東北⇒北海道	300	300	300	300	—	—	300	—	運用容量0MW 平日P・N 10日 休日P 13,21日
	方向	3月（運用容量900MW時）								備考
	北海道⇒東北	232	232	272	252					
	東北⇒北海道	512	512	532	522					

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW:2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、扱いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)

変更後

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

下線部：追加・変更箇所

(単位：MW)

連系線	方向	10月（運用容量300MW時）				1月（運用容量300MW時）				備考
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	—	—	<u>12</u>	—	(10月) 運用容量300MW 平P・N 11~12,17~19,22,24日 休P 20日 ※1 休N 13,20,21日
	東北⇒北海道	300	300	300	300	—	—	300	—	運用容量0MW 平日P・N 10日 休日P 13,21日
	方向	3月（運用容量900MW時）								備考
	北海道⇒東北	232	232	272	252					
	東北⇒北海道	512	512	532	522					

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW:2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、扱いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)

※1 「2018～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)」(2018/3/1公表)の誤記を今回修正

(系統情報サービスで2018/3/1に公表済みのマージンの作業時等の値は正値)

変更前

(単位：MW)

平休日	昼夜	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日	昼間	322	362	392	412	412	392
	夜間	270	300	340	380	390	360 ^{※1}
休日	昼間	310	330	362	340	372	342
	夜間	270	290	362	360	372	342

※1:3/11～15は392（連系線作業による）

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



変更後

下線部：追加・変更箇所

(単位：MW)

平休日	昼夜	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日	昼間	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>
	夜間	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>
休日	昼間	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>
	夜間	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>	<u>12</u>

※1:3/11～15は392（連系線作業による）

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
・変更後のマージンは、区分B0(北海道風力実証試験用)マージンのみ

空白

変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	夜間・連系線有線等時
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,20参照						
	東北⇒北海道	シート19,20参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	592	532	642	822	822	712	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	630	760	760	680	
	中部⇒東京	600	600	630	810	810	690	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	700	700	700	700	700	700	夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	50	50	60	70	70	60	
	北陸⇒関西	50	50	60	70	70	60	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	270	260	290	360	360	320	
	関西⇒中部	280	290	310	380	380	330	6/1昼間は210
関西中国間 連系線	関西⇒中国	230	230	250	320	320	270	
	中国⇒関西	260	260	280	350	350	320	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	700	700	700	700	700	450	4/6~5/27は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		下線部：追加・変更箇所						
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	夜間・連系線有線等時
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,20参照						
	東北⇒北海道	シート19,20参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	12~392*1	22~402*1	22~402*1	22~352*1	22~352*1	22~402*1	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	6/1昼間は210
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~700*3	0~700*3	0~700*3	0~700*3	0~700*3	0~450*3	4/6~5/27は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・範囲を記載しているマーシンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分12MW（4月）、22MW（5~9月）に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW（4~6月,9月）、0~330MW（7,8月）を加えたもの
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW
 ※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~700MW（4~8月）、0~450MW（9月）

変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,21参照						
	東北⇒北海道	シート19,21参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	543	633	698	748	748	688	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	660	700	700	640	12/2-6, 3/23-25:3600
	中部⇒東京	600	620	680	720	720	660	11/11-15, 11/18-22, 11/25-29, 12/2-6, 3/23 ~25:3600
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	700	700	700	700	700	700	10/24:30 夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸							
	北陸⇒関西	50	50	60	60	60	60	10/24:3600:30
中部関西間 連系線	中部⇒関西	260	280	310	330	330	290	
	関西⇒中部	310	300	330	350	350	330	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	230	250	280	300	300	270	
	中国⇒関西	260	270	300	330	330	290	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	450	700	700	700	700	700	10/30, 31:30 12/11:3600, 12/12:3600:30
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注)・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		(単位：MW)						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,21参照						
	東北⇒北海道	シート19,21参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	23~473*1	23~403*1	28~408*1	28~408*1	28~408*1	28~408*1	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	12/2-6, 3/23-25:3600
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	11/11-15, 11/18-22, 11/25-29, 12/2-6, 3/23 ~25:3600
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	0~590*2	10/24:30 夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸							
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	10/24:3600:30
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~450*3	0~700*3	0~700*3	0~700*3	0~700*3	0~700*3	10/30, 31:30 12/11:3600, 12/12:3600:30
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注)・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分23MW (10,11月), 28MW (12~3月) に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW (10月), 0~380MW (11~3月) を加えたもの
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW
 ※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW (10月), 0~700MW (11~3月)

変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	シート19,20参照						
	東北→北海道	シート19,20参照						
東北東京間 連系線	東北→東京	472	472	472	712	712	602	
	東京→東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京→中部	600	600	600	600	620	600	
	中部→東京	600	600	600	690	690	600	
中部北陸間 連系設備	北陸→中部	0	0	0	0	0	0	
	中部→北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西→北陸	0	0	0	0	0	0	
	北陸→関西	50	50	50	60	60	50	
中部関西間 連系線	中部→関西	230	220	240	290	300	270	
	関西→中部	210	220	240	280	290	280	6/2昼間は160
関西中国間 連系線	関西→中国	210	200	220	270	270	230	
	中国→関西	230	220	230	290	300	260	
関西四国間 連系設備	関西→四国	0	0	0	0	0	0	
	四国→関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国→四国	700	700	700	700	700	450	4/6~5/27は0
	四国→中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国→九州	0	0	0	0	0	0	
	九州→中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		下線部：追加・変更箇所						
連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	シート19,20参照						
	東北→北海道	シート19,20参照						
東北東京間 連系線	東北→東京	<u>12~392</u> *1	<u>22~402</u> *1	<u>22~402</u> *1	<u>22~352</u> *1	<u>22~352</u> *1	<u>22~402</u> *1	
	東京→東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京→中部	600	600	600	600	<u>600</u>	600	
	中部→東京	600	600	600	<u>600</u>	<u>600</u>	600	
中部北陸間 連系設備	北陸→中部	0	0	0	0	0	0	
	中部→北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西→北陸	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	北陸→関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
中部関西間 連系線	中部→関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	関西→中部	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	6/4昼間は160
関西中国間 連系線	関西→中国	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	中国→関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
関西四国間 連系設備	関西→四国	0	0	0	0	0	0	
	四国→関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国→四国	<u>0~700</u> *2	<u>0~450</u> *2	4/6~5/27は0				
	四国→中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国→九州	0	0	0	0	0	0	
	九州→中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり

・範囲を記載しているマーシンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分12MW(4月)、22MW(5~9月)に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW(4~6月,9月)、0~330MW(7,8月)を加えたもの

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~700MW(4~8月)、0~450MW(9月)

変更前		(単位：MW)						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,21参照						
	東北⇒北海道	シート19,21参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	473	493	638	668	668	588	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	620	600	600	
	中部⇒東京	600	600	610	650	640	600	12/1,7は600
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	40	50	50	60	60	50	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	220	240	270	290	290	250	
	関西⇒中部	250	270	290	300	290	250	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	210	230	260	270	270	230	
	中国⇒関西	220	230	270	290	280	240	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	450	700	700	700	700	700	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり



変更後		下線部：追加・変更箇所						
連系線	方向	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート19,21参照						
	東北⇒北海道	シート19,21参照						
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>23~473*1</u>	<u>23~403*1</u>	<u>28~408*1</u>	<u>28~408*1</u>	<u>28~408*1</u>	<u>28~408*1</u>	
	東京⇒東北	シート22参照						
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	<u>600</u>	600	600	
	中部⇒東京	600	600	<u>600</u>	<u>600</u>	<u>600</u>	600	12/1,7は600
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	関西⇒中部	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
	中国⇒関西	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	<u>0~450*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	<u>0~700*2</u>	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・範囲を記載しているマーシンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス公表上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
 ※1: 北海道風力実証分23MW（10,11月）、28MW（12~3月）に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW（10月）、0~380MW（11~3月）を加えたもの
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW（10月）、0~700MW（11~3月）

変更前

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	242	262	282	282	292	312	312	312	522	522	472	472
	東北→北海道	512	522	532	532	542	552	552	552	532	552	552	552
	方向	7月				8月				9月			
	北海道→東北	522	522	522	522	522	522	522	522	522	522	522	522
	東北→北海道	452	472	472	472	442	472	462	472	452	472	472	472
	方向	10月				11月				12月			
	北海道→東北	263	303	293	303	213	253	263	263	198	218	218	198
	東北→北海道	453	473	463	473	533	543	553	553	518	538	528	528
	方向	1月				2月				3月			
	北海道→東北	208	208	238	198	208	208	228	188	248	248	288	268
	東北→北海道	498	498	538	528	518	508	538	518	548	548	568	558

(注)：想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマーシンの値については抜いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマーシンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマーシンの増強分の容量を加算)

変更後

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

下線部：追加・変更箇所

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	242	262	282	282	292	312	312	312	<u>272</u>	<u>312</u>	<u>312</u>	<u>312</u>
	東北→北海道	512	522	532	532	542	552	552	552	532	552	552	552
	方向	7月				8月				9月			
	北海道→東北	262	<u>312</u>	<u>302</u>	<u>312</u>	252	312	<u>292</u>	<u>312</u>	262	<u>312</u>	<u>302</u>	<u>312</u>
	東北→北海道	452	472	472	472	442	472	462	472	452	472	472	472
	方向	10月				11月				12月			
	北海道→東北	263	303	293	303	213	253	263	263	198	218	218	198
	東北→北海道	453	473	463	473	533	543	553	553	518	538	528	528
	方向	1月				2月				3月			
	北海道→東北	<u>148</u>	<u>148</u>	238	198	<u>178</u>	<u>178</u>	228	188	248	248	288	268
	東北→北海道	498	498	538	528	518	508	538	518	548	548	568	558

(注)：想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマーシンの値については抜いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマーシンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマーシンの増強分の容量を加算)

※1 「2018～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマーシンの値(年間計画)(2018/3/1公表)の誤記を今回修正(系統情報サービスで2018/3/1に公表済みのマーシンの作業時等の値は正値)

変更前

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	5月(運用容量600MW時)				5月(運用容量300MW時)				備考
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	292	312	312	312	152	152	112	112	(5月運用容量600MW) 平P・N 14~17,20~22,28~31日 休P・N 18,19日
	東北→北海道	542	552	552	552	300	300	300	300	(5月運用容量300MW) 平P・N 23,24,27日 休P・N 25,26日
	方向	6月(運用容量600MW時)				7月(運用容量600MW時)				備考
	北海道→東北	522	522	472	472	522	522	522	522	(6月運用容量600MW) 平P・N 3~7,10~12日 休P・N 1~2,8~9日
	東北→北海道	532	552	552	552	452	472	472	472	(7月運用容量600MW) 平P・N 16~19,22~26,29~31日 休P 14~15,20~21,27~28日 休N 13~15,20~21,27~28日
	方向	7月(運用容量300MW時)				8月(運用容量600MW時)				備考
	北海道→東北	—	—	300	—	522	522	522	522	(7月運用容量300MW) 休P 13日
	東北→北海道	—	—	300	—	442	472	462	472	(8月運用容量600MW) 平P・N 1~2,5~9日 休P 3~4,10日 休N 3~4,10~11日
	方向	8月(運用容量300MW時)								備考
	北海道→東北	—	300	—	—	—	—	—	—	(8月運用容量300MW) 休P 11日
	東北→北海道	—	300	—	—	—	—	—	—	

(注)：想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマーシンの値については抜いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。
 (運用開始までにマーシンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマーシンの増強分の容量を加算)

変更後

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

下線部：追加・変更箇所

(単位：MW)

連系線	方向	5月(運用容量600MW時)				5月(運用容量300MW時)				備考
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
北海道本州間 連系設備	北海道→東北	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	(5月運用容量600MW) 平P・N 14~17,20~22,28~31日 休P・N 18,19日
	東北→北海道	542	552	552	552	300	300	300	300	(5月運用容量300MW) 平P・N 23,24,27日 休P・N 25,26日
	方向	6月(運用容量600MW時)				7月(運用容量600MW時)				備考
	北海道→東北	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	(6月運用容量600MW) 平P・N 3~7,10~12日 休P・N 1~2,8~9日
	東北→北海道	532	552	552	552	452	472	472	472	(7月運用容量600MW) 平P・N 16~19,22~26,29~31日 休P 14~15,20~21,27~28日 休N 13~15,20~21,27~28日
	方向	7月(運用容量300MW時)				8月(運用容量600MW時)				備考
	北海道→東北	—	—	<u>22</u>	—	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	<u>22</u>	(7月運用容量300MW) 休P 13日
	東北→北海道	—	—	300	—	442	472	462	472	(8月運用容量600MW) 平P・N 1~2,5~9日 休P 3~4,10日 休N 3~4,10~11日
	方向	8月(運用容量300MW時)								備考
	北海道→東北	—	<u>22</u>	—	—	—	—	—	—	(8月運用容量300MW) 休P 11日
	東北→北海道	—	300	—	—	—	—	—	—	

(注)：想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマーシンの値については抜いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。
 (運用開始までにマーシンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマーシンの増強分の容量を加算)

※1 「2018～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマーシンの値(年間計画)(2018/3/1公表)の誤記を今回修正(系統情報サービスで2018/3/1に公表済みのマーシンの作業時等の値は正値)

変更前		<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>								(単位：MW)	
北海道本州間 連系設備	方向	10月（運用容量600MW時）				10月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(10月運用容量600MW) 平P・N 2~4.7~11.28~29日 平N 2~4.28~30日 休P・N 5~6.26~27日	
	北海道⇒東北	263	303	293	303						
	東北⇒北海道	453	473	463	473						
	方向	10月（運用容量300MW時）				1月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(10月運用容量300MW) 平P 1.4,30日 平N 1日	(1月運用容量600MW) 平P・N 16~17.20~24.27~31日 休P・N 18~19.25~26日
	北海道⇒東北	153	153	—	—	208	208	238	198		
	東北⇒北海道	300	300	—	—	498	498	538	528		
	方向	2月（運用容量600MW時）				3月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(2月運用容量600MW) 平P・N 3~7.10.12~14.17~ 21.24~28日 休P・N 1~2.8~9.11.15~16.22 ~23.29日	(3月運用容量600MW) 平P・N 2~6.9~13.16~19.23~ 27.30日 休P・N 1.7~8.14~15.20~22.28 ~29日
北海道⇒東北	208	208	228	188	248	248	288	268			
東北⇒北海道	518	508	538	518	548	548	568	558			
方向	3月（運用容量300MW時）								備考		
	平P	平N	休P	休N					(3月運用容量300MW) 平P 31日 平N 31日		
北海道⇒東北	198	198	—	—							
東北⇒北海道	300	300	—	—							

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては抜いて検討のため、上表の値にはこれを考慮していない。
 (運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)

変更後		<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>								下線部：追加・変更箇所		(単位：MW)	
北海道本州間 連系設備	方向	10月（運用容量600MW時）				10月（運用容量600MW時）				備考			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(10月運用容量600MW) 平P 2~3.7~4.28~29日 平N 2~4.28~30日 休P・N 5~6.26~27日 ※北本3.0.0MW、新北本3.0.0MW	(10月運用容量600MW) 平P・N 7~11日 休P・N 5~6日 ※北本6.0.0MW、新北本0.0MW	※1	
	北海道⇒東北	23	23	23	23	263	303	293	303				
	東北⇒北海道	453	473	463	473	453	473	463	473				
	方向	10月（運用容量300MW時）				1月（運用容量600MW時）				備考			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(10月運用容量300MW) 平P 1.4,30日 平N 1日	(1月運用容量600MW) 平P・N 16~17.20~24.27~31日 休P・N 18~19.25~26日		
	北海道⇒東北	23	23	—	—	28	28	28	28				
	東北⇒北海道	300	300	—	—	498	498	538	528				
	方向	2月（運用容量600MW時）				3月（運用容量600MW時）				備考			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(2月運用容量600MW) 平P・N 3~7.10.12~14.17~ 21.24~28日 休P・N 1~2.8~9.11.15~16.22 ~23.29日	(3月運用容量600MW) 平P・N 2~6.9~13.16~19.23~ 27.30日 休P・N 1.7~8.14~15.20~22.28 ~29日		
北海道⇒東北	28	28	28	28	28	28	28	28					
東北⇒北海道	518	508	538	518	548	548	568	558					
方向	3月（運用容量300MW時）								備考				
	平P	平N	休P	休N					(3月運用容量300MW) 平P 31日 平N 31日				
北海道⇒東北	28	28	—	—									
東北⇒北海道	300	300	—	—									

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系設備(+30万kW・2019年3月運開予定)において、増強後のマージンについては抜いて検討のため、上表の値にはこれを考慮していない。
 (運用開始までにマージンの必要量を検討。なお、広域機関システム上における年間計画の公表値は、抜いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算)
 ※1 「2018~2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)」(2018/3/1公表)の誤記を今回修正
 (系統情報サービスで2018/3/1に公表済みのマージンの作業時等の値は正値)

変更前		(単位：MW)											
平日	昼間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	夜間	322	312	332	380	320	362	333	373	408	428	428	390
休日	昼間	280	250	260※1	280	240	280	270	300	340	380	400	340
	夜間	300	260	300※2	330	300	330	310	330	370	340	388	340
休日	昼間	280	230	260※2	280	230	280	270	290	380	360	388	340
	夜間												

※1:6/10~14は332（連系線作業による）、※2:6/8、9は332（連系線作業による）
 (注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり

変更後		下線部：追加・変更箇所												(単位：MW)	
平日	昼間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	夜間	12	22	22	22	22	22	23	23	28	28	28	28		
休日	昼間	12	22	22	22	22	22	23	23	28	28	28	28		
	夜間	12	22	22	22	22	22	23	23	28	28	28	28		

※1:6/10~14は332（連系線作業による）、※2:6/8、9は332（連系線作業による）
 (注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・変更後のマージンは、区分B0(北海道風力実証試験用)マージンのみ

<平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯>

下線部:追加・変更箇所

(単位: MW)

方向	区分	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	280	270	280	200	240	240	240	170	200	190	180
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		252	292	282	292	212	252	252	252	182	212	202	192
東北⇒北海道	B1	510	530	520	530	490	510	510	510	470	490	480	480
	C1	430	450	440	450	410	430	430	430	390	410	400	400
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		522	542	532	542	502	522	522	522	482	502	492	492
方向	区分	1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	120	130	220	180	150	150	200	160	220	220	260	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		132	142	182	182	162	162	212	172	232	232	272	252
東北⇒北海道	B1	450	450	500	480	470	460	490	470	500	500	520	510
	C1	370	370	420	400	390	380	410	390	420	420	440	430
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		462	462	512	492	482	472	502	482	512	512	532	522

(説明) ・区分についてはシート29、30を参照
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



<平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯>

下線部:追加・変更箇所

(単位: MW)

方向	区分	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	230	250	270	270	270	290	290	290	250	290	290	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		242	262	282	282	292	312	312	312	272	312	312	312
東北⇒北海道	B1	500	510	520	520	520	530	530	530	510	530	530	530
	C1	420	430	440	440	440	450	450	450	430	450	450	450
	B0	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		512	522	532	532	542	552	552	552	532	552	552	552
方向	区分	7月				8月				9月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	290	280	290	230	290	270	290	240	290	280	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		262	312	302	312	252	312	292	312	262	312	302	312
東北⇒北海道	B1	430	450	450	450	420	450	440	450	430	450	450	450
	C1	430	450	450	450	420	450	440	450	430	450	450	450
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		452	472	472	472	442	472	462	472	452	472	472	472

(説明) ・区分についてはシート29、30を参照
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



<平:平日、休:休日、P:昼間帯、N:夜間帯>

下線部:追加・変更箇所

(単位:MW)

方向	区分	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	280	270	280	190	230	240	240	170	190	190	170
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	23	23	23	23	23	23	23	23	28	28	28	28
		<u>263</u>	<u>303</u>	<u>293</u>	<u>303</u>	<u>213</u>	<u>253</u>	<u>263</u>	<u>263</u>	<u>198</u>	<u>218</u>	<u>218</u>	<u>198</u>
東北⇒北海道	B1	430	450	440	450	510	520	530	530	490	510	500	500
	C1	430	450	440	450	410	420	430	430	390	410	400	400
	B0	23	23	23	23	23	23	23	23	28	28	28	28
		<u>453</u>	<u>473</u>	<u>463</u>	<u>473</u>	<u>533</u>	<u>543</u>	<u>553</u>	<u>553</u>	<u>518</u>	<u>538</u>	<u>528</u>	<u>528</u>
方向	区分	1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	120	120	210	170	150	150	200	160	220	220	260	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
		<u>148</u>	<u>148</u>	<u>238</u>	<u>198</u>	<u>178</u>	<u>178</u>	<u>228</u>	<u>188</u>	<u>248</u>	<u>248</u>	<u>288</u>	<u>268</u>
東北⇒北海道	B1	470	470	510	500	490	480	510	490	520	520	540	530
	C1	370	370	410	400	390	380	410	390	420	420	440	430
	B0	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
		<u>498</u>	<u>498</u>	<u>538</u>	<u>528</u>	<u>518</u>	<u>508</u>	<u>538</u>	<u>518</u>	<u>548</u>	<u>548</u>	<u>568</u>	<u>558</u>

(説明) ・区分についてはシート29、30を参照
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の連開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり



(参考) 2017年度のマージン設定値実績

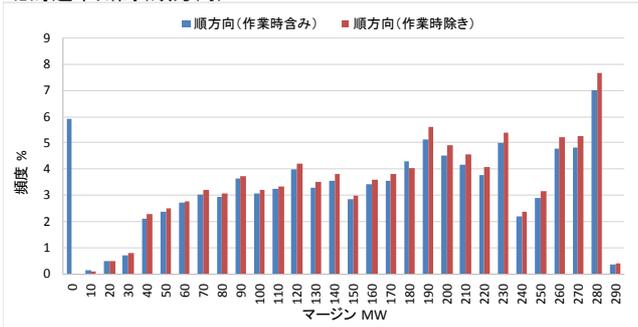
【集計内容】

- ▶ 2017年4月1日~2018年3月31日 (48コマ (30分コマ) × 365日)
- ▶ 当日断面における最終値

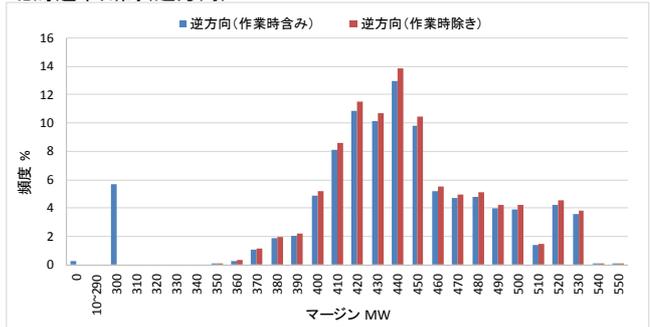
連系線名	方向	作業	平均 (MW)	最小 (MW)	最大 (MW)	最頻値(MW) 【最もデータ数が多い値】 括弧内は最頻値発生率	最頻度数 (個)	母数 (個)
北海道本州間※	順方向	作業時含み	162	0	290	280 (7.0%)	1,231	17,520
		作業時除き	173	0	290	280 (7.7%)	1,231	16,069
	逆方向	作業時含み	438	0	550	440 (13.0%)	2,277	17,520
		作業時除き	447	350	550	440 (13.8%)	2,277	16,449
東北東京間※	順方向	作業時含み	61	0	450	0 (57.2%)	10,016	17,520
		作業時除き	61	0	450	0 (55.2%)	8,451	15,301
	逆方向	作業時含み	2	0	8	0 (80.8%)	14,150	17,520
		作業時除き	2	0	8	0 (80.8%)	14,150	17,520
東京中部間	順方向	作業時含み	599	300	600	600 (99.6%)	17,456	17,520
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	8,847	8,847
	逆方向	作業時含み	596	0	600	600 (99.1%)	17,366	17,520
		作業時除き	596	0	600	600 (99.2%)	8,778	8,847
中部関西間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
北陸フェンス	順方向	作業時含み	83	0	590	0 (73.0%)	12,788	17,520
		作業時除き	101	0	590	0 (67.1%)	9,659	14,391
北陸関西間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
関西中国間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
中国四国間	順方向	作業時含み	176	0	930	0 (36.7%)	6,435	17,520
		作業時除き	196	0	930	0 (29.7%)	4,673	15,758



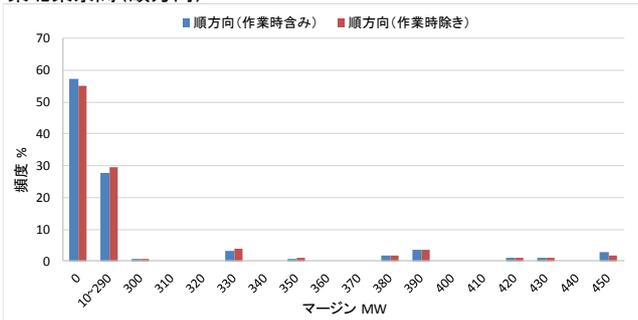
北海道本州間(順方向)



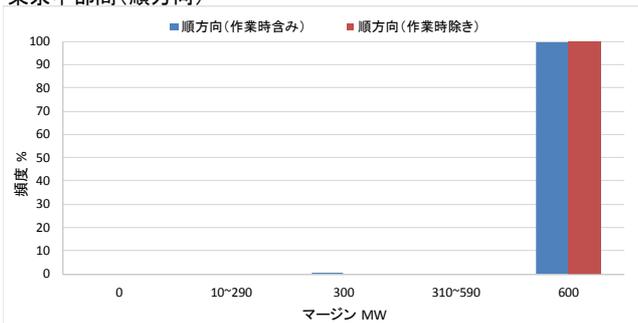
北海道本州間(逆方向)



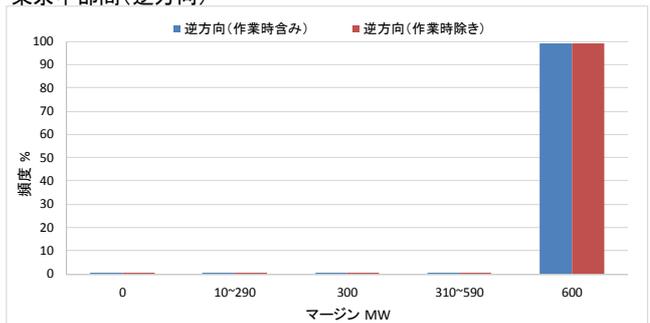
東北東京間(順方向)



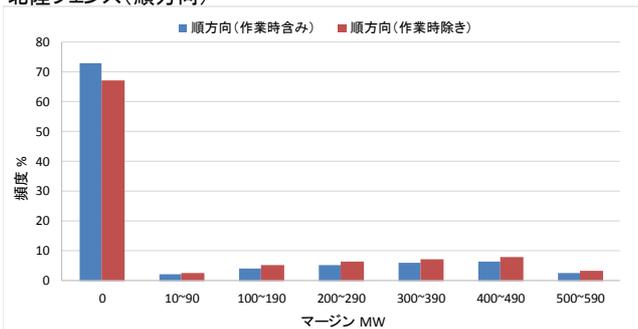
東京中部間(順方向)



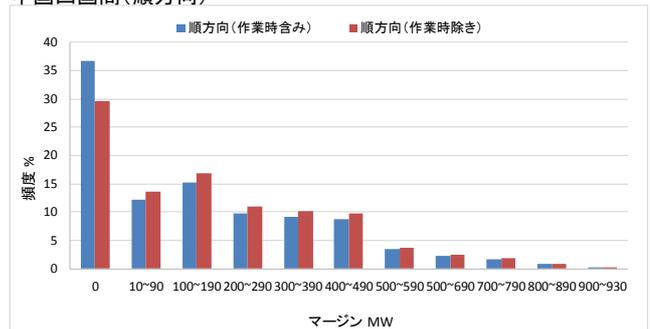
東京中部間(逆方向)



北陸フェンス(順方向)



中国四国間(順方向)



内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力システムの異常時に電力システムの周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I-a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS:逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS:順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源IIの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2に「北海道風力実証試験」を追記
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

2020～2027年度の予備力・調整力 及び潮流抑制のためのマージン （長期計画）

（案）

2018年9月14日



〈説明〉 長期断面におけるマージンの値

2

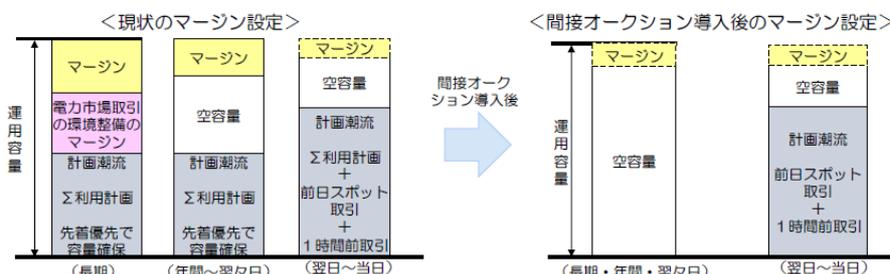
- ◆ 長期断面におけるマージンについては、間接オークション導入以降の送配電等業務指針に基づき、多くの連系線において、0として設定していたが、一部の連系線※については、実需給断面において、マージンを設定する蓋然性があるものの、計画段階では値を確定することが困難なことを踏まえ、実需給断面において設定する蓋然性のある値の範囲で設定する。なお、系統情報サービス上は蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
- ◆ また、北海道本州間連系設備増強後のマージンについても、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理内容を反映する。

※いずれも順方向で、東北東京間連系線、北陸フェンス（中部北陸間連系設備、北陸関西間連系線と合わせて確保）、中国四国間連系線

主な業務規程・送配電等業務指針変更点：マージンの設定断面について（変更）

17

- 現行ルールでは、「先着優先」で長期断面から利用計画により容量登録されるため、長期～実需給断面においてマージンを設定している。
- 連系線利用ルールが「間接オークション」に変更され前日スポット取引以降に容量登録されるため、**翌々日断面において実需給断面を考慮したマージンが設定されていれよい。**
- 他方、供給計画を基にした需給バランス評価など予見性の観点から、長期・年間断面においてもマージンを設定しておくことが必要である。
- 上記より、マージン設定の断面は「**長期・年間・翌々日**」とし、現行ルールで実施していた**マージン減少は不要なため削除**する。【規程第128条、第129条】（変更）



業務規程・送配電等業務指針（変更）の検討について
出典：広域機関HP 策定・変更に関するお知らせ 2017年度

※ 年間・月間・翌々日の断面で実需給断面に向けマージンを減少
※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

※ 実需給断面において必要な場合のみマージンを設定

変更前

(MW)

連系統	方向	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	備考
北海道本州間連系統設備	北海道⇒東北	149 【318】	160 【330】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)
	東北⇒北海道	499 【578】	510 【590】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)
東北東京間連系統	東北⇒東京	28	40	0	0	0	0	0	0	最大需要時の値(8月平日昼間)
	東京⇒東北	29	40	0	0	0	0	0	0	最大需要時の値(1月平日昼間)
東京中部間連系統設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
上記以外		0	0	0	0	0	0	0	0	

注) ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系統設備(+30万kW:2019年3月運開予定)および東京中部間連系統設備(+90万kW:2020年度運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討)
 ・北海道風力実証試験にかかるマージンの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未定であることから、別途設定する。

- ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系統の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
- ・【】の値は、最大需要時以外で空容量が小さくなると想定される断面のマージンの値を示す



変更後

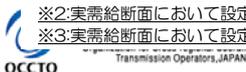
下線部：追加・変更箇所

(MW)

連系統	方向	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	備考
北海道本州間連系統設備	北海道⇒東北	149 【318】	160 【330】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	120 【290】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)
	東北⇒北海道	499 【578】	510 【590】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	470 【550】	最大需要時の値(1月平日昼間) マージン最大値(6月休日夜間)
東北東京間連系統	東北⇒東京	28~478 ^{*1}	40~490 ^{*1}	0~450 ^{*1}	最大需要時の値(8月平日昼間)					
	東京⇒東北	29	40	0	0	0	0	0	0	最大需要時の値(1月平日昼間)
東京中部間連系統設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	EPPS_600MW
北陸フェンス	中部⇒北陸	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	0~590 ^{*2}	
	関西⇒北陸									
中国四国間連系統	中国⇒四国	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	0~700 ^{*3}	
上記以外		0	0	0	0	0	0	0	0	

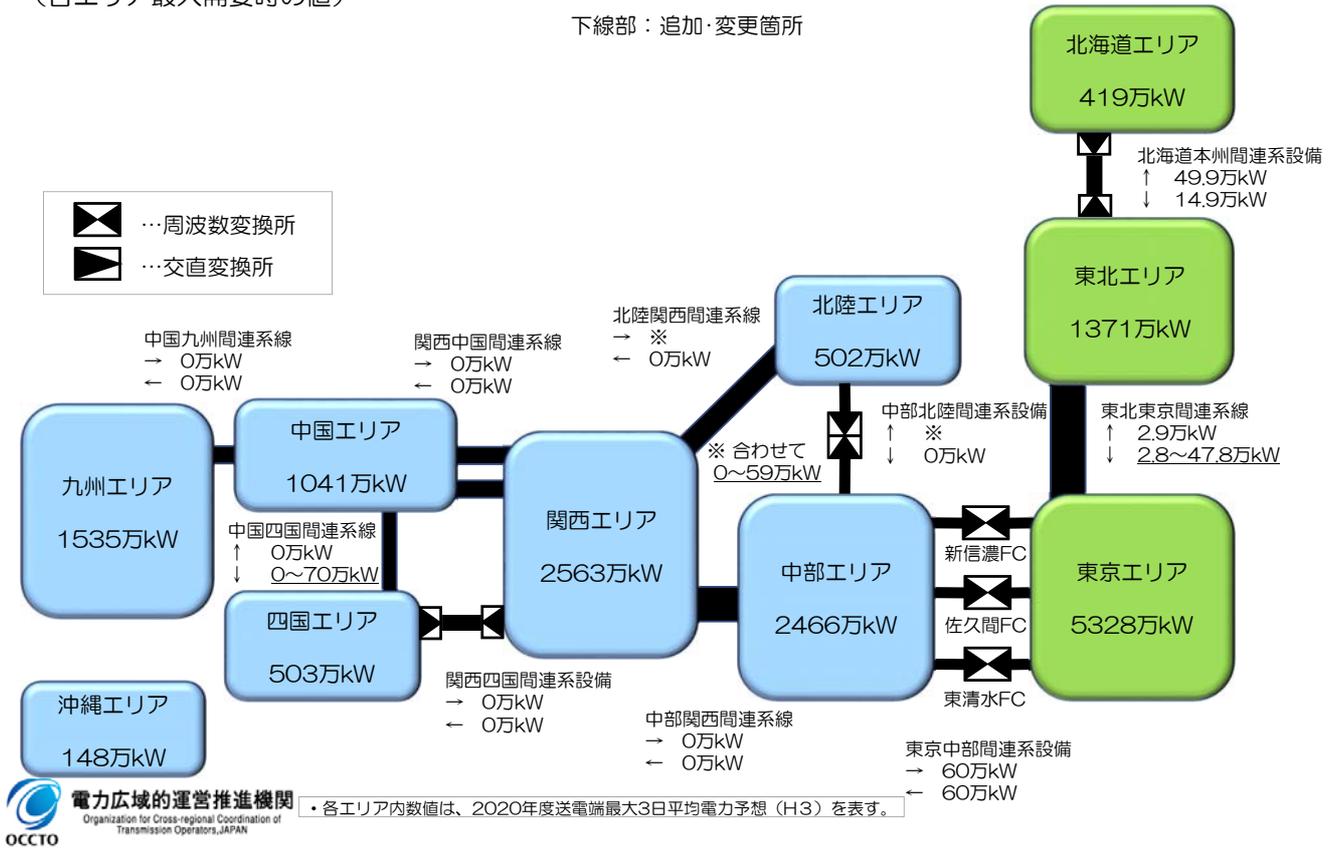
注) ・増強により運用容量が増加する北海道本州間連系統設備(+30万kW:2019年3月運開予定)および東京中部間連系統設備(+90万kW:2020年度運開予定)において、増強後のマージンについては扱いを検討中のため、上表の値にはこれを考慮していない。(運用開始までにマージンの必要量を検討) 北海道本州間連系統設備(+30万kW:2019年3月運開予定)は検討結果を考慮済み。
 ・北海道風力実証試験にかかるマージンの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未定であることから、別途設定する。

- ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系統の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
- ・【】の値は、最大需要時以外で空容量が小さくなると想定される断面のマージンの値を示す
- ・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り、なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。
^{*1}2020年度は、北海道風力実証分 28MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(昨年度実績)を加えたもの
 2021年度は、北海道風力実証分 40MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(昨年度実績)を加えたもの
 2022~2027年度は実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(昨年度実績)
 (最大需要時の値(8月平日昼間))
- ^{*2}実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW (最大値(昨年度実績))
- ^{*3}実需給断面において設定する蓋然性のある値0~700MW (最大値)



2020年度における予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン算出結果
(各エリア最大需要時の値)

下線部：追加・変更箇所



参考) 2020~2027年度〔北本連系設備〕 マージン内訳

〔北本連系設備_最大需要時〕

(単位: MW)

方向	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
北海道⇒東北	C1	120	120	120	120	120	120	120	120
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	AO	29	40	-	-	-	-	-	-
		149	160	120	120	120	120	120	120
東北⇒北海道	B1	470	470	470	470	470	470	470	470
	C1	370	370	370	370	370	370	370	370
	AO	29	40	-	-	-	-	-	-
		499	510	470	470	470	470	470	470

〔北本連系設備_マージン最大時〕

(単位: MW)

方向	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
北海道⇒東北	C1	290	290	290	290	290	290	290	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0
	AO	28	40	-	-	-	-	-	-
		318	330	290	290	290	290	290	290
東北⇒北海道	B1	550	550	550	550	550	550	550	550
	C1	450	450	450	450	450	450	450	450
	AO	28	40	-	-	-	-	-	-
		578	590	550	550	550	550	550	550

(説明) ・区分についてはシート11、12を参照
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、AOの値を加えた値をマージンの値とする
 ・区分A1は予備力が不足していない場合は0となる
 ・区分AOの2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する

(注)・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運用月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり

【集計内容】

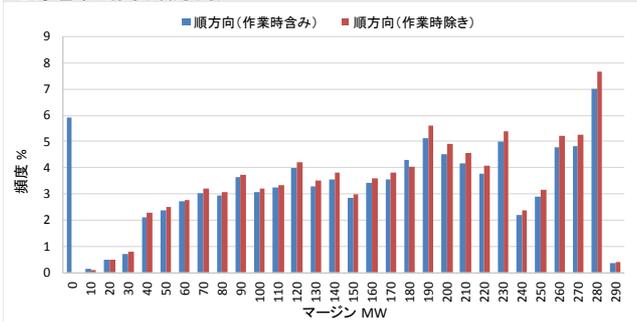
- ▶ 2017年4月1日～2018年3月31日 (48コマ (30分コマ) × 365日)
- ▶ 当日断面における最終値

連系線名	方向	作業	平均 (MW)	最小 (MW)	最大 (MW)	最頻値(MW) 【最もデータ数が多い値】 括弧内は最頻値発生率	最頻度数 (個)	母数 (個)
北海道本州間※	順方向	作業時含み	162	0	290	280 (7.0%)	1,231	17,520
		作業時除き	173	0	290	280 (7.7%)	1,231	16,069
	逆方向	作業時含み	438	0	550	440 (13.0%)	2,277	17,520
		作業時除き	447	350	550	440 (13.8%)	2,277	16,449
東北東京間※	順方向	作業時含み	61	0	450	0 (57.2%)	10,016	17,520
		作業時除き	61	0	450	0 (55.2%)	8,451	15,301
	逆方向	作業時含み	2	0	8	0 (80.8%)	14,150	17,520
		作業時除き	2	0	8	0 (80.8%)	14,150	17,520
東京中部間	順方向	作業時含み	599	300	600	600 (99.6%)	17,456	17,520
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	8,847	8,847
	逆方向	作業時含み	596	0	600	600 (99.1%)	17,366	17,520
		作業時除き	596	0	600	600 (99.2%)	8,778	8,847
中部関西間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
北陸フェンス	順方向	作業時含み	83	0	590	0 (73.0%)	12,788	17,520
		作業時除き	101	0	590	0 (67.1%)	9,659	14,391
北陸関西間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
関西中国間	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	17,520	17,520
中国四国間	順方向	作業時含み	176	0	930	0 (36.7%)	6,435	17,520
		作業時除き	196	0	930	0 (29.7%)	4,673	15,758

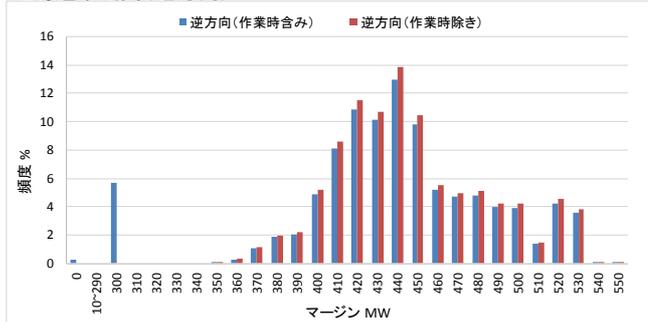


下線部：追加・変更箇所

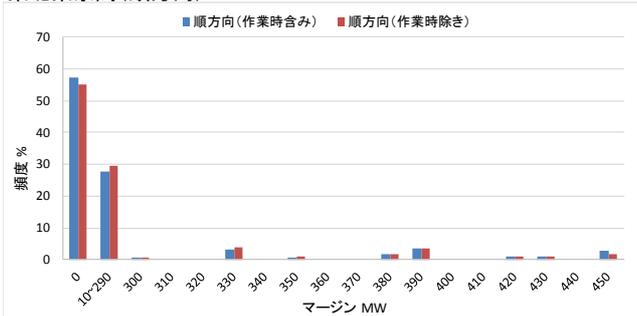
北海道本州間(順方向)



北海道本州間(逆方向)

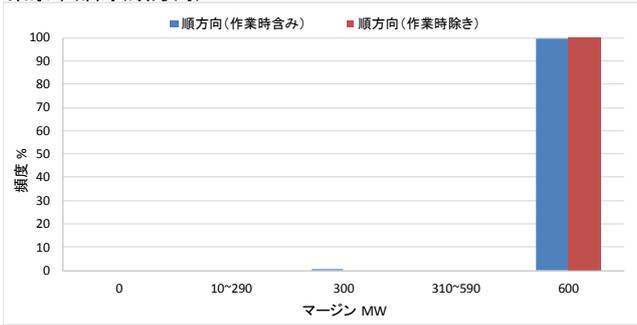


東北東京間(順方向)

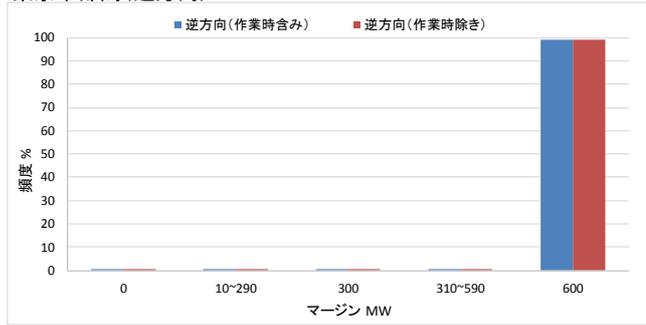


下線部：追加・変更箇所

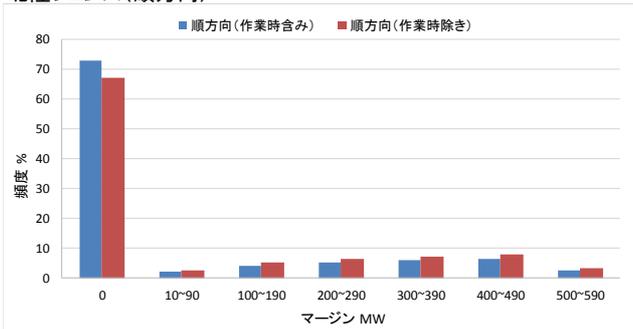
東京中部間(順方向)



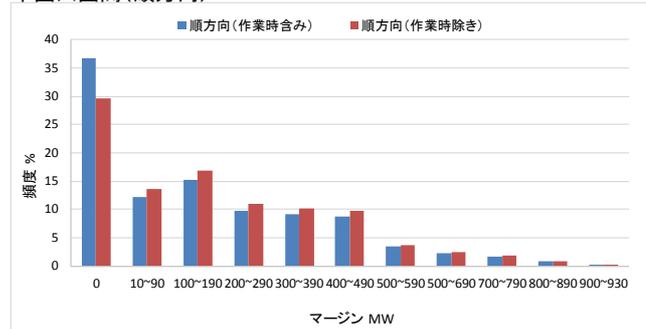
東京中部間(逆方向)



北陸フェンス(順方向)



中国四国間(順方向)



空白

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力系統の異常時に電力系統の周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I-a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		(該当なし)	・東京中部間連系設備 (EPPS:逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS:順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源Ⅱの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

出典：第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2



【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力系統の異常時に電力系統を安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

出典：第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2



実需給断面における連系線マージン の値及び確保理由について

（案）

2018年9月14日

空 白

変更前

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
北海道本州間連系設備	北海道→東北	120~508MW	北海道本州間連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数上昇を一定値以内に抑制するため。具体的には、北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値とする。〈C1〉 但し、東京エリアが需給ひっ迫した場合において北海道エリアから供給が期待できる値（※1）の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉
	東北→北海道	450~548MW	北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。〈B1〉 但し、北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた値の方が大きい場合は、その値とする。〈C1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈B0〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーシンの値として設定
 - ※2 北海道風力実証試験にかかるマーシンの値として、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値
- (注) ・マーシンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマーシンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マーシンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更後

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
北海道本州間連系設備	北海道→東北	120~ <u>330</u> MW	北海道本州間連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数上昇を一定値以内に抑制するため。具体的には、次の①~③のうち大きい値とする。 ①北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値とする。〈C1〉 ② <u>新</u> 北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 ③但し、 <u>※1</u> （ <u>最大値は、東京エリアの系統容量の3%相当の半量のうち、東京エリアが需給ひっ迫した場合において北海道エリアから供給が期待できる値</u> ）の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉 また、上記に加え、 <u>※2</u> を加える。〈B0〉
	東北→北海道	<u>420</u> ~ <u>590</u> MW	北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。 <u>なお単一の電源の最大出力は発電計画等を踏まえ設定する。</u> 〈B1〉 但し、 <u>次の①、②のいずれかが、上記の値よりも大きい場合は①、②のうち大きい方の値とする。</u> ①北海道・本州間電力連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた <u>値の方が大きい</u> 場合は、その値とする。〈C1〉 ② <u>新</u> 北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値。〈C1〉 また、上記に加え、 <u>※2</u> を加える。〈B0〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーシンの値として設定
 - ※2 北海道風力実証試験に係るマーシンの値として、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値
- (注) ・マーシンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマーシンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マーシンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更前

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
東北東京間 連系線	東北→ 東京	① 0~808MW ② 330~808MW	※1の値に※4を加えた値(①)とする。〈A1、BO〉 但し、台風や暴風雪等の予見可能なリスクが高まった場合は、電力システムを安定に維持するため、東京エリア内で想定する送電線の故障により複数の電源が脱落した場合に東北エリアから東京エリアに流れる最大の潮流の値と※1の値のうち大きい値に※2を加えた値(②)とする。〈C2、BO〉
	東京→ 東北	0~412MW	※1 〈A1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈BO〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力(但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする)に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定
- ※2 北海道風力実証試験にかかるマージンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値
- (注)・マージンの値は2018年度における値
・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更後

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
東北東京間 連系線	東北 →東京	〇~490MW ^{※3}	※1(最大値は、東京エリアの融通期待量(系統容量の3%相当)の半量)の値に※2を加えた値(①)とする。〈A1、BO〉 但し、台風や暴風雪等の予見可能なリスクが高まった場合は、電力システムを安定に維持するため、東京エリア内で想定する送電線の故障により複数の電源が脱落した場合に東北エリアから東京エリアに流れる最大の潮流の値と※1の値のうち大きい値に※2を加えた値(②)とする。〈C2、BO〉
	東京→ 東北	〇~40MW	※1(最大値は、東北エリアの融通期待量(系統容量の3%相当)) 〈A1〉 また、上記に加え、※2を加える。〈BO〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力又は供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力(但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする)に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定
- ※2 北海道風力実証試験に係るマージンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値
- ※3 2018年度は、北海道風力実証分12MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(10~12月)、〇~380MW(1~3月)を加えたもの。
2019年度は、北海道風力実証分12MW(4月)、22MW(5月~9月)、23MW(10~11月)、28MW(12月~3月)に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW(10月)、〇~380MW(4~6月、9月、11月~3月)、〇~330MW(7、8月)を加えたもの。
2020年度は、北海道風力実証分28MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MWを加えたもの。
2021年度は、北海道風力実証分40MWに、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MWを加えたもの。
2022~27年度は、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW。
- (注)・マージンの値は2018年度における値
・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更前

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
東京中部間 連系設備	東京→ 中部	600~760MW	60Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合又は最大電源が脱落した場合に、60Hz系統の周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して東北・東京エリアから電力を受給しても、東北・東京エリアの周波数偏差と60Hz系統の周波数偏差が逆転しない値とする。〈B2〉 但し、※1の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉
	中部→ 東京	600~800MW	50Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合、又は最大電源が脱落した場合に、東北・東京エリアの周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して60Hz系統から電力を受給しても、60Hz系統の周波数偏差と東北・東京エリアの周波数偏差が逆転しない値とする。〈B1〉 但し、※1の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーシンとして設定

- (注) ・マーシンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマーシンの区分を示す。シート13, 14参照

連系線マーシンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更後

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
東京中部間 連系設備	東京 →中部	<u>600MW</u>	60Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合又は最大電源が脱落した場合に、60Hz系統の周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して東北・東京エリアから電力を受給しても、東北・東京エリアの周波数偏差と60Hz系統の周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B2〉 但し、※1（ <u>最大値は、中部及び関西エリアの融通期待量（系統容量の合計の3%相当）の半量</u> ）の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉
	中部→ 東京	<u>600MW</u>	50Hz系統内で送電線の故障により複数の電源が脱落した場合、又は最大電源が脱落した場合に、東北・東京エリアの周波数低下を抑制するため。但し、東京中部間連系設備を介して60Hz系統から電力を受給しても、60Hz系統の周波数偏差と東北・東京エリアの周波数偏差が原則逆転しない値とする。〈B1〉 但し、※1（ <u>最大値は、東京エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量</u> ）の値の方が大きい場合は、その値とする。〈A1〉

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマーシンとして設定

- (注) ・マーシンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマーシンの区分を示す。シート13, 14参照

連系線マーシンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更前

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	なし	なし
	中部⇒北陸	0~700MW	※1、※2 〈A1〉
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸		
	北陸⇒関西	0~70MW	※1、※3 〈A1〉
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0~360MW	※1、※3 〈A1〉
	関西⇒中部	0~370MW	※1 〈A1〉
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0~320MW	※1 〈A1〉
	中国⇒関西	0~350MW	※1、※3 〈A1〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定
 - ※2 中部北陸間連系設備及び北陸関西間連系線と合わせて確保する
 - ※3 北陸関西間連系線、中部関西間連系線及び関西中国間連系線と合わせて確保する
- (注) ・マージンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更後

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	なし	なし
	中部⇒北陸	<u>0~590MW</u> ※4	※1（ <u>最大値は、北陸エリアの融通期待量（出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は、当該供給量を控除した値とする。以下、最大電源相当量））</u> ）、※2 〈A1〉
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸		
	北陸⇒関西	QMW	※1（ <u>最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）</u> ）、※3 〈A1〉
中部関西間 連系線	中部⇒関西	QMW	※1（ <u>最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）</u> ）、※3 〈A1〉
	関西⇒中部	QMW	※1（ <u>最大値は、中部エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量</u> ）〈A1〉
関西中国間 連系線	関西⇒中国	QMW	※1（ <u>最大値は、中国エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）</u> ）〈A1〉
	中国⇒関西	QMW	※1（ <u>最大値は、関西エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）</u> ）、※3 〈A1〉

- ※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定
- ※2 中部北陸間連系設備及び北陸関西間連系線と合わせて確保する（北陸フェンスにて管理）
- ※3 北陸関西間連系線、中部関西間連系線及び関西中国間連系線と合わせて確保する（系統容量見合いで配分）
- ※4 2019年10月24日はOMW、平日夜間、休日はOMW、平日昼間の実需給断面において、設定する蓋然性のある値は0~590MW

- (注) ・マージンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13、14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更前

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	なし	なし
	四国⇒関西	なし	なし
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~700MW	※1 〈A1〉
	四国⇒中国	なし	なし
中国九州間 連系線	中国⇒九州	なし	なし
	九州⇒中国	なし	なし

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定

- (注) ・マージンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13, 14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

変更後

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	なし	なし
	四国⇒関西	なし	なし
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~700MW ^{※2}	※1 (最大値は、四国エリアの融通期待量(最大電源相当量)) 〈A1〉
	四国⇒中国	なし	なし
中国九州間 連系線	中国⇒九州	なし	なし
	九州⇒中国	なし	なし

※1 原則ゼロとする。但し、電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して予備力が不足する場合は、不足する電力の値をマージンとして設定する。

※2 2018年10月15,16日、2019年3月2~10日、4月6日~5月27日は0MW。実需給断面において、設定する蓋然性のある値は0~700MW（但し、2019年9月~10月は0~450MW）。

- (注) ・マージンの値は2018年度における値
 ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり
 ・〈 〉はマージンの区分を示す。シート13, 14参照

連系線マージンのあり方を検討中の調整力及び需給バランス評価等に関する委員会での整理事項は、都度反映していく予定

内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力システムの異常時に電力システムの周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I-a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS:逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS:順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源IIの余力も含む。
 ※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
 ※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2に「北海道風力実証試験」を追記
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)

【出典】第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2
http://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2016/chousei_jukyu_11_haifu.html

出典：第24回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料1-2

間接オークションの開始等に伴う2018年10月～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画、長期計画)の変更について

間接オークションの開始日が10月1日と決定したことを踏まえ、2018年10月～2020年3月(年間計画)の、予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(以下、「マージン」とします)について、間接オークション開始後の業務規定に基づき変更するとともに、2021年度～2027年度(長期計画)のマージンについても、一部、見直しを行いました。加えて、北海道本州間連系設備増強(2019年3月運開予定)後のマージンの扱いについて検討が完了したことから、これを反映し北海道本州間連系設備のマージン(年間計画・長期計画)を見直しましたので、別紙1、2のとおり公表いたします。

また、あわせて、実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由についても見直しを行いましたので別紙3の通り公表いたします。

主な変更事項

1. 間接オークションの開始にともなう変更

年間計画におけるマージンについて、間接オークション開始後の業務規程に基づき、実需給断面におけるマージンが必要な場合を除き、原則としてマージンの値をゼロで設定します。なお、一部の連系線[※]については、実需給断面において、マージンを設定する蓋然性はあるものの、計画段階では値を確定することが困難であることからマージンについて蓋然性のある値の範囲としております。また、長期計画におけるマージンについては、すでに、間接オークション開始後の業務規程に基づき設定しておりましたが、年間計画と同じく、一部の連系線について蓋然性のある値の範囲とするよう見直します。

※ 詳細は別紙1、2参照

2. 北海道本州間連系設備の増強に伴うマージンの扱いについて

北海道本州間連系設備の増強については、運用開始までにマージンの必要量を検討することとし、広域機関システムにおける公表値は、扱いが決まるまではマージンに増強分の容量を加算しておりましたが、検討が完了したことから、この扱いを取り止め、今回、見直したマージンを設定します。

添付資料

※ 別紙 添付略

- 別紙1 [2018・2019年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン\(年間計画:2018年10月～2020年3月\)](#) 
- 別紙2 [2020～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン\(長期計画\)](#) 
- 別紙3 [実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由について](#) 

※年間計画、長期計画における詳細は系統情報サービスをご覧ください。(2018年9月19日更新予定)

年間計画 : [系統情報サービス](#) > 地域間連系線情報 > 連系線空容量参照 > 連系線空容量

長期計画 : [系統情報サービス](#) > その他情報 > その他情報参照 > 各種情報 > 空容量

関連リンク

- [マージン検討会の資料](#)